とある守護師の発火能力者（パイロキネシスト）

皐月　駆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
とある守護師の発火能力者（パイロキネシスト）

【Ｎコード】
Ｎ０６０９Ｑ

【作者名】
皐月　駆

【あらすじ】
学園都市の第７学区
発火能力（パイロキネシス）を持つ大能力者。
長嶺　涼
たいして幸でも無く不幸でもない平凡な高校生活を送っていた。
髪の色は漆黒に染まっていて、身長１７０センチほど、スポーツ狩りのような髪型だ。
そんな長嶺涼はコンビニに行く途中、妙なものを見つける。

1、大能力者（長嶺　涼）（前書き）

こんにちは、作者の駆です（ニコニコ）
中1で、初心者です。小説書いたこと無いので、ところどころ間違っている可能性がありますが、ご了承ください（ペコリ）
中学校生活エンジョイしてます。（ニコニコ）
Σはっ！！！？
ちょっと生意気でした…すいません（ペコリ）
本当に出来ればでいいんで、本文読んでください、生意気なガキが書いたものですが。
まぁ…前書き読んでくれただけでありがたいです。
ちなみに主人公の設定ですが…あらすじにも書きますが、書いておきます。

長嶺　涼
年齢：１７歳
身長：１７２センチ
体重：５５キロ
学校：東が丘高校２年
特徴：なし（↑ええっ！）
ってところです。まぁ…今回は、暴力シーンはあまりありませんが、次回から増やそうと思います（ニヤニヤ）
話は変わりますが、１月２７日発売のＰＳＰ専用ソフトも買おうかなぁ？と、思います。
皆さんは買いますか？
Σおっとこれくらいにして…

ではでは、本文をどうぞ～

1、大能力者（長嶺　涼）

「……んだぁ？？」

真冬の中、公園をさまよう一人の少女を見つけた長嶺涼は面度臭そうに、近寄った。

「なにやってんだぁ？…んな寒い中、風邪ひくぞぉ？」

「……」

初対面のためか、どうもこちらを警戒しているようだ。

長嶺は返事を待つかのように、しばらく少女を見ていた。５分ぐらいすると、少女の身体が震えているのが分かったのか、長嶺は能力を使って、左手に焔の玉を作り、右手で少女の頭を撫でてやった。

にっこりした長嶺の顔と焔の暖かさに落ち着いたのか、少女は寝入ってしまった。長嶺は困った顔をしたが、このままにしては置けないと、少女をおんぶし、自分の家に連れて行ってやることにした。

長嶺涼は寮暮らしで、公園からはほど遠くない所に住んでいた。

長嶺はため息をし、顔を真っ赤にしながら自分の家に向かうのであった。

（……こんなチビを背負ってるところを誰かに見られたら恥だなぁ…）

などと考えながら少女を見ていた。とても気持ちよさそうに寝ている少女を見ると長嶺は、自然と気持ちが穏やかになっていった。

自分の部屋に着くと、外が薄暗いため電気をつけた。そして、少女を布団まで運んでやった。

――――１０分後――――

長嶺が少女を見つめていると、少女は少しづつ目を覚ましていった。

「おっ！…起きたかぁ？」

長嶺が声をかけるといきなり立ち、少女は顔を輝かせて訪ねてきた。
「助けてくれたのですか～！？まぁ…ありがとうです～！！…ところでさっきの能力は何ですか～！！貴方は能力者なのですか～！？」
「あァァ？なんだなんだぁ！？？？…」
いきなりのハイテンションに長嶺は驚いた。
「とりあえず…落ち着け！！」
長嶺涼は冷静な判断をとり、少女を座らせた。すると、少女はまたしゃべり始めた。
「助けてくれてありがとうございます～。私は、ローナというものです～。」
長嶺は、ローナを見た。暖かそうなフード付のウインドブレーカーらしきものを着ていて、髪の色は茶色で、目は緑色だった、歳は１２くらいに見えるが、１７歳（高校２年）の長嶺から見たら少女であった。
ローナはニッコリと微笑んだが、長嶺は困った顔で訪ねた。
「ちょっと待てっ…助けるってどうゆうことだぁ～？」
「えっ？…私が追われていることを知らないんですか～？」
ローナはキョトンとした顔で訪ねたが、答えはすぐ返ってきた。
「知るかっ！！！お前と口聞いたのは今回が初めてだろうがぁ！！」
「ではでは、助けてくださ……」
「他あたれ……」
言う前に答えたのがショックだったのか、ローナは顔を曇らせて。
「……すいませんでした。」
といい、一礼してから、外に出て行った。
「……ちと、言い過ぎたかなぁ～？」
長嶺は心配し、こっそりあとを追った。
ローナは、下を向きながら歩いていた。断られたのがショックだったのだろう。
しばらく付いていくと公園についた。ベンチに座り込んでため息

を吐いている。
「やっと見つけたぞぉ～すぐ来やがれガキがぁ…」
身長１７０センチくらいの男がローナに話しかけた。ローナは逃げようとするが、すぐ捕まり、手を引っ張ってローナを何処かへ連れて行こうとする。
様子を見ていた長嶺は男の前へ立ちふさがった。
「…あん？なんだぁ、てめぇ？」
「なんだだってぇ？笑えねぇなぁ～今すぐそいつを放しやがれ…」
長嶺は、尋常じゃない顔で言った。
「いやだ…と言ったら？」
「…あァァ？てめぇの命はねぇ～なぁ」
男はニヤッと笑った。
「ギャハハハッ…こっちの事情も知らないでよぉ～いいぞぉ～死にてぇようなら相手になってやら～」
男は懐から、ハンドガンのような拳銃を出して長嶺に２発打ってきた。しかし、長嶺は瞬時に灼熱の焔を作り出し、弾ごと溶かしてしまった。
「てめぇのふざけた精神ごと溶かしてやんよぉ…この発火能力者（パイロキネシスト）長嶺涼がなぁ！！」
ＬＥＶＥＬ４の大能力者、長嶺涼の焔は辺りを撒き散らすようにでかくなっていった。
男は、ニヤッとした。
「あァァ？なにがおかしいんだァァ？？」
「……こんなところで、んなバカデカイ焔を放ったらどうなると思う？」
長嶺涼は、少し考えた…そしてはっとした。
「そうよぉ、お前さんが守りたい誰かさん（ローナ）までみちづれよぉ～ヒャァハッハハハ～」
自分の状況の分かっていない男は、醜く吠えた。長嶺は舌打ちをした、こんな無能力者を殺すことができないからだ。

ローナは気絶しているらしい。長嶺は必死で考えようとした。が、すきを見て長嶺に近づき一発右手で殴った。
「ぐっはぁぁぁ！！……」
目の前に火花が飛び散った、暗闇に吸い込まれていくような感覚がしたが、長嶺はすぐに起き上がった。体制が崩れて、一瞬、目まいがした。口からは血が出ていて舌が少し切れたのかもしれない。しかし、男が待ってくれるはずが無い。男は拳銃を構えた、長嶺はよろめきながら立っている。
（俺はこんなところで死ぬのか？……）
すると、長嶺はふと考えた、「自分が死んだあとあの娘はどうなるのか？」そう考えると意地でも生きようと言う思いが出てきた。
「あばよぉ…兄ちゃん…」
男が3発打ち込んだ。しかし、長嶺は地面に転がり回避した。
一発掠ったがたいした怪我ではなかった。そして、長嶺は無意識に男の所へ転がり、左手でローナを突き飛ばし、右手で焔の拳を作り殴った。
「Σ！！？…グッ」
愚者利（ぐしゃり）と鈍い音がなった。
男は、3mほど吹っ飛んだ。しかし、たいして強い焔ではなかったため死にはしなかった。長嶺はローナをベンチに運び、無事を確認するとニコッと笑った。自分の口からは血が出ているのにもかかわらず……

「おいっ！！起きるじゃん！！」
警備委員（アンチスキル）の女がローナに気づいた。あの男がいない…きっと逃げ

たのだろう…
「えっ？はい……ぇと…なんでしょうか？」
ローナはどうしたらいいか判らないまま返事だけした。警備委員（アンチスキル）の女は呆れた顔で言った。
「…完全下校時刻…過ぎてるじゃん。貴方どこの学生じゃん？何、のんびり寝てるじゃん？」
「ぇと……まぁ…お昼に昼寝してたら、こんな時間になってしまいましたです。……すみませんです～」
ローナは頭を下げ謝った。
「……じゃあ、早く帰るじゃん！！」
警備委員（アンチスキル）の女は声は怒っていたが、顔は笑っていた。
もう一回一礼をし、公園をあとにしたローナは、長嶺の家に向かって走っていった。階段を上がって部屋の前まで行くと、口から血を吐き倒れている長嶺を見つけた。

1、大能力者（長嶺　涼）（後書き）

読了ありがとうございますです。
今回は初めてと言うことで書いてみました。
まぁ…シッチャカメッチャカですけどね～（笑）
え～っと感想書いてくれたらうれしいです（ニコニコ）悪かったところとかじゃんじゃん書いちゃってください、お答えしますんで。
ではでは、ここら辺で
え～っと、後書き少なくてごめんなさい（ペコリ）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0609q/

とある守護師の発火能力者（パイロキネシスト）

2011年1月10日09時10分発行